

学校教育目標	かしこく たくましく ゆたかに ～「ひと」とのつながりを大切に生きる児童の育成～
目指す学校像	輝く笑顔 学ぶ意欲あふれる学校

重点目標	1 「学習者が主体的に学ぶ授業」の実現に向け、児童が真ん中にある教育活動の展開 2 子どもたちの心に寄り添い、チームで支える学校づくり 3 子どもたちのエージェンシーを地域で育むコミュニティ・スクールの推進 4 教育環境の整備(安心・安全で素敵な学校づくり) 5 「新たな教師の学びの姿」に向け挑戦し続ける校内体制の構築
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価					年度評価		学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価		実施日令和8年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語および算数の学力において、いずれも全国平均および市の平均を下回っている。</li> <li>学習に対する意欲や態度については、市の平均とほぼ同程度であり、大きな差は見られない。</li> <li>調べ学習や学習内容のまとめに対して、主体的に取り組む児童が多く見られ、学習への積極的な姿勢がうかがえる。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語においては記述式の問題への対応力が弱く、算数では「データの活用」に関する理解や活用力が十分でない。</li> <li>学習意欲や主体性をさらに引き出し、それを土台として、知識の定着および思考力の向上を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した「個別最適な学び」の理解と実践</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①教職員研修や市教委の訪問などを活用し、「アクティブ・ラーニング型授業」と「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」のチェックリストで授業改善に取り組む。</li> <li>②SDBの教育データを活用して単元全体の学習計画を立て、タブレットで個別最適な学習支援を行う。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの指標(児童)で「ICTの効果的な活用」の項目において、校内平均が市平均を上回る。</li> <li>学びの指標(教職員)で「児童生徒の個の習熟の程度に応じた支援を行っている」肯定的回答が80%以上。</li> <li>学びの指標(教職員)で「学級、学年、異学年、他校など、多様な学習集団を編制している」肯定的回答が80%以上。</li> <li>学校評価(保護者)「主体的に学ぶために効果的な指導・支援を行っている」昨年度同水準(93.4%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの指標「ICT」児3.15(市平均3.08)</li> <li>学びの指標「児童生徒の個の習熟の程度に応じた支援を行っている」3.5(88%)</li> <li>SDB、学校カウンセリング、ICT研修を実施し、ICTや教育データの利活用を推進した。教職員の実践度は高く、SSSPの推進につなげることができた。</li> </ul>	B	<p>教育データの利活用が十分でなく、教職員の活用度に差があることが課題である。また、個別最適な学びや対話的・協働的な学びの実現には、教師自身の関わり方の学習が必要である。データ活用例の共有やミニ研修で実践力を高める。</p>	<p>学びの指標では、「ICT」が児童3.15、「児童の個の習熟程度に応じた支援」が3.5となり、いずれも目標値を上回っており、日々の取組の成果が着実に表れている。教育データの利活用については、これからさらに伸ばしていける分野であり、発展の余地が大きい。タブレットの入れ替えも予定されているため、研修を充実させることで、より実践力を高める環境が整うと考える。</p>
2	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童およびその保護者に対して丁寧な寄り添いながら、信頼関係の構築・発展に努めている</li> <li>継続的な観察やアンケートの実施などを通じて、児童一人ひとりの理解を深める取組を行っている。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の個々の状況をより的確に把握するためには、日常的な情報収集に加え必要に応じて迅速かつ適切に外部機関と連携し、学校全体として組織的に対応できる体制の整備が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ、差別を許さない児童一人ひとりが安心安全を感じる環境づくり</li> <li>情報共有による児童支援体制の強化</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①集団や社会との関わりに関することについて校長講話(学期1回)や道徳の授業(年1回公開)を行う。</li> <li>②アンケートや面談で児童の心の状態を把握し、専門職・保護者と連携して迅速に支援する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団や社会との関わりに関することについて校長講話(学期1回)や道徳の授業(年1回公開)ができたか。</li> <li>学校評価(保護者・教職員)「友だちと仲良く生活する態度を育む教育活動を実践している」昨年度同水準(95%)</li> <li>学校評価(児童・保護者)「相談しやすい環境整備」95%(R6:児童91%、保護者95%)</li> <li>教職員アンケート「情報を共有しチームで対応できたか」肯定的回答90%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団や社会との関わりに関することについて校長講話(年8回)実施。道徳の授業(年1回公開)実施。</li> <li>学校評価「友だちと仲良く生活する態度を育む教育活動を実践している」保96%、教100%</li> <li>学校評価「相談しやすい環境整備」児91.8%保97.8%</li> <li>教「情報を共有しチームで対応できたか」100%(内「そう思う」R6:56.3%→R7:78.8%)</li> </ul>	B	<p>講話や公開授業は成果を上げているが、学年差により人間関係づくりの実践にばらつきがある。次年度は道徳や学級活動の指導法を校内で共有し、体験的活動を充実させることで、より安定した友だち関係づくりを促す。</p>	<p>校長講話や道徳教育の充実により、いじめ・差別を許さない児童一人ひとりが安心安全を感じる環境づくりに成果をあげている。また、教職員は情報を共有しチームで児童の支援体制の強化を図ることができたと感じた。新たな課題について、さらなる取組に期待する。</p>
3	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登下校の見守りや読み聞かせ、おやじの会、自治会・育成会・PTAの支援により、地域と連携した活動が定着しつつある。</li> <li>学校だよりやHPで教育活動を広報し、授業参観や行事も積極的に公開している。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会で地域の教育力(SSN等)を活かす行事の実現に向け、熟議と積極的な行動が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の公開性の向上</li> <li>地域とのつながりを深める取組</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会やSSNの取組を、学校だよりやホームページで発信する。(年3回以上)</li> <li>②おやじの会など地域の協力を得て、地域資源を活用した教育活動を行う。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や授業を月1回以上公開できたか。</li> <li>学校運営協議会やSSNの取組を年3回以上発信できたか。</li> <li>学校評価(学校運営協議会委員・保護者)「学校の公開性、地域との相互理解に努めている」昨年度同水準(委員:100%、保護者96%)</li> <li>市学習状況調査【生活習慣に関する調査】アンケート「地域をよくするために何かしてみたいか」85%(R6:81.5%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会:年3回、SSNの取組:年1回発信</li> <li>学校評価「学校の公開性、地域との相互理解に努めている」委:100%、保96.8%</li> <li>学校行事や授業を月1回以上公開できた。</li> <li>市学調「地域をよくするために何かしてみたいか」88%</li> <li>総合的な学習において、地域連携を意識した単元内容に見直すことができた。</li> </ul>	B	<p>公開性は高評価だが、地域と継続的に関わる機会が十分ではない。次年度は行事や授業公開を継続しつつ、学校運営協議会やSSN発信を充実させ、地域との対話と参画をさらに広げる。</p>	<p>学校運営協議会やSSNを通じた学校の取組について、情報公開が積極的に進められており、高く評価できる。おやじの会との連携や、幼稚園・朝鮮学校との交流など、地域の特性を生かした取組も着実に進んでいる。今後は、保育園や幼稚園、中学校との連携をさらに深め、より充実した取組へと発展していくことを期待する。</p>
4	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備の不具合が認められた場合、児童の安全確保への措置を速やかに行い、市教委と連携し対応している。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の事件・事故事案を踏まえ、自然災害や不審者などへの対応力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検の実施と対応体制の強化</li> <li>避難訓練等の実施</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎月の安全点検の重要性を教職員に周知し、不備の報告があった場合には速やかに現状を確認のうえ、管理職と事務職員が連携して対応を協議する。</li> <li>②実践的な傷病者対応訓練、様々な自然災害に対応した避難訓練、不審者対応訓練を実施する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価(保護者・教職員・学校運営委員)「学校内外での児童の安全対策や危険防止等」昨年度同水準(保護者95%)</li> <li>傷病者対応訓練、避難訓練(地震・火災・水害)、不審者対応訓練の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価「学校内外での児童の安全対策や危険防止等」保94.9%</li> <li>通学路の一部変更について、地域・PTA・市や県の関係部署と協力し、来年度の実施に向け進めることができた。</li> <li>傷病者対応訓練、避難訓練(地震(予告なし)・火災・水害)、不審者対応訓練を計画通り実施できた。</li> </ul>	A	<p>通学路変更に向け、地域・PTA・行政と連携して協議を進めたが、来年度は、見守り体制や危険箇所の再点検と保護者への情報提供を継続する。</p>	<p>危険と思われる通学路の見直しや変更に取り組むなど、安全面での対策が進められ、学校評価においても高い評価を得ている。これからの、児童の安全な通学の確保に向けて、保護者や地域と連携した取組が一層進むことを期待する。</p>
5	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主研修により「アクティブ・ラーニング型授業」への理解が深まり、実践力が向上した。</li> <li>研修奨励により、教職員の研修参加が活発になった。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境の変化を前向きに捉え、生涯にわたり主体的に学ぶ教師像の実現が求められている。</li> <li>子どものWell-being実現のため、教職員の働きやすさと働き甲斐を両立し、教職員自身のWell-being向上が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「新たな教師の学びの姿」の実現</li> <li>更なる働き方改革の推進</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①初回面談で研修意向を共有し、「全国教員研修プラットフォーム」の活用を促す。</li> <li>②他校の授業を参観し、教育の最新動向への理解を深める。(教職員の90%)</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケート「参加した研修により教師力が高まったと実感できた」肯定的回答90%</li> <li>90%の教職員が他校の授業を年1回以上参観したか。</li> <li>教職員の働き方に関する調査で肯定的回答80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケート「参加した研修により教師力が高まったと実感できた」92%</li> <li>90%の教職員が他校の授業を年1回以上参観した。</li> <li>教職員の働き方に関する調査75%</li> <li>学校業務改善の取組が負担軽減につながっている88.7%</li> <li>教職員の協働体制97.3%</li> </ul>	B	<p>学んだ内容を授業改善へ体系的に生かす仕組みが課題である。他校参観の成果を共有する場を設け、校内研修と結び付けて教師力向上を組織的に図る。</p>	<p>教職員アンケートでは、「研修により教師力が高まった」との回答が92%と高く、研修の成果が表れている。今後も研修への積極的な参加を通して、教師力をさらに向上させていくことを期待する。また、業務量に偏りが見られることから、校務分掌の精選などにより負担軽減が進むことを望む。</p>